

1. 概要

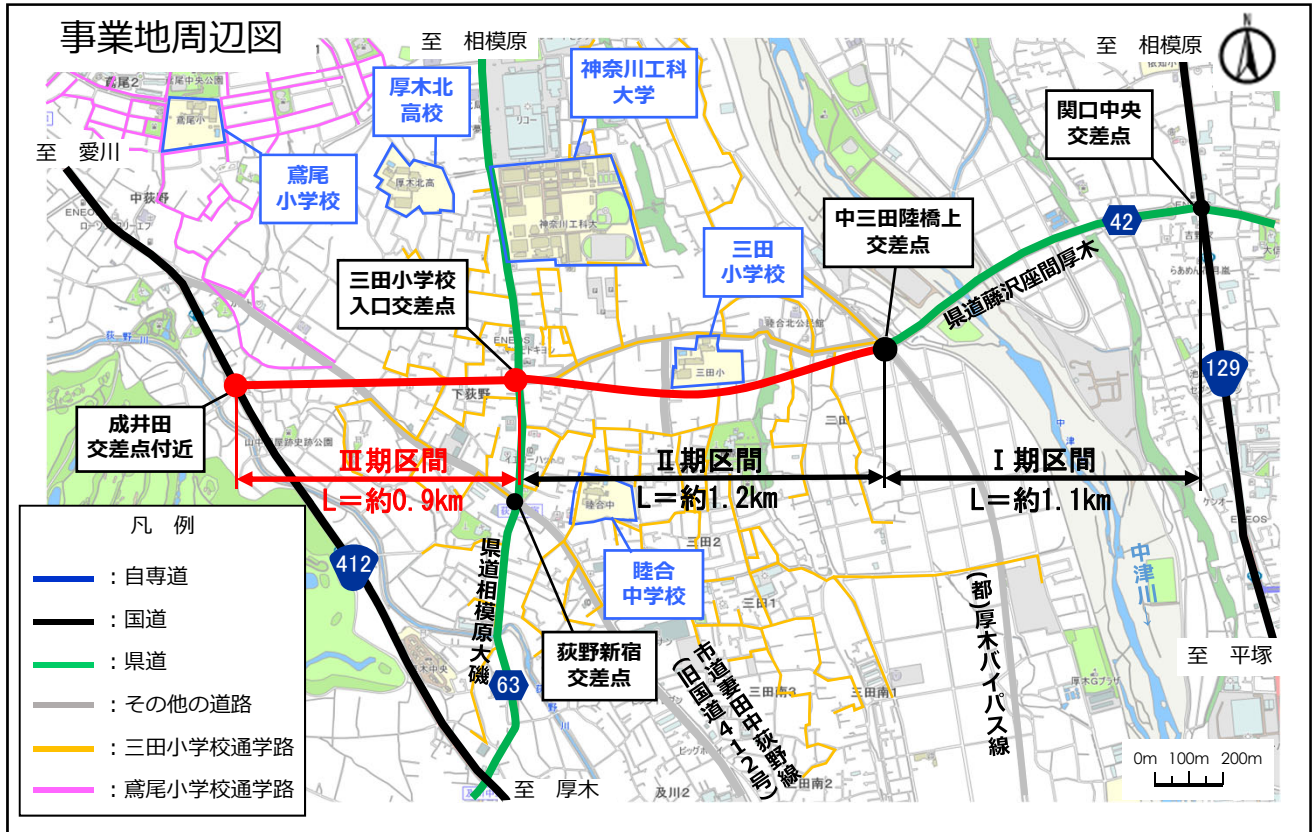
1) 全体の概要

- ・ 本路線は、藤沢市を起点とし、綾瀬市、海老名市および座間市を經由して厚木市に至る延長約17.2 k mの幹線道路である。
- ・ 県央地域における東西方向の連絡を強化するとともに、厚木市域の外郭環状道路を形成し、市の中心市街地に集中する交通を分散させ、渋滞を緩和させる役割を担っている。



2) 評価対象事業の概要

- ・ 評価対象区間は、厚木市下荻野の県道63号（相模原大磯）から国道412号までの約0.9kmである。
- ・ 本事業は、4車線の道路を整備するものであり、東側のⅡ期区間約1.2kmは、平成22年度に事業着手し、令和8年度の供用に向けて事業を進めている。
- ・ Ⅱ期区間のさらに東側のⅠ期区間約1.1kmは、平成24年度に供用済みである。



出典：神奈川県「e-かなマップ」

3) 評価対象事業の位置づけ

ア) 県の計画：

- 新かながわグランドデザイン実施計画
 - ・ 「交流幹線道路網の整備」として位置づけ
- かながわ交通計画
 - ・ 「多車線機能を有する一般幹線道路網の構築」として位置づけ
- 改定・かながわのみちづくり計画
 - ・ 「交流幹線道路網の整備」における「将来に向けて検討が必要な道路」として位置づけ

イ) 市の計画：

- 厚木市都市マスタープラン
 - ・ 「環状連携軸を形成する都市計画道路の整備」として位置づけ
- 厚木市交通マスタープラン
 - ・ 「早期供用に向けて県へ要望する路線」として位置づけ
- あつぎのみちづくり計画
 - ・ 「県へ早期整備に向けた要望を行う路線」として位置づけ

改定・かながわのみちづくり計画



2. 事業の経緯や必要性

1) 経緯

- ・ 昭和37年度：都市計画決定
- ・ 昭和44年度：都市計画変更（幅員・延長の変更）
- ・ 昭和60年度：都市計画変更（延長の変更）
- ・ 平成22年度：Ⅱ期区間 用地取得開始
- ・ 平成24年度：Ⅰ期区間 供用開始
- ・ 平成25年度：Ⅱ期区間 工事着手

2) 必要性

- ・ 圏央道の厚木PAスマートICから国道129号を経由して国道412号に至る、厚木市内を東西方向に連絡する本路線は、県央地域の道路ネットワークを強化する道路として、整備が求められている。
- ・ 厚木市の市街地を通過する国道246号に交通が集中し、慢性的な交通渋滞が発生しており、環状道路として機能する本路線の整備が求められている。

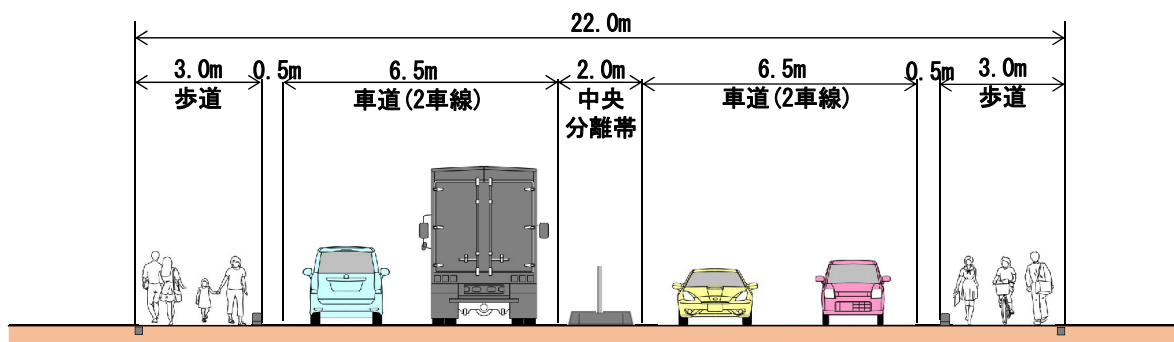
3. 事業の目的

- ・ 県央地域における東西方向の道路ネットワークの強化
- ・ 厚木市域の外郭環状道路の形成

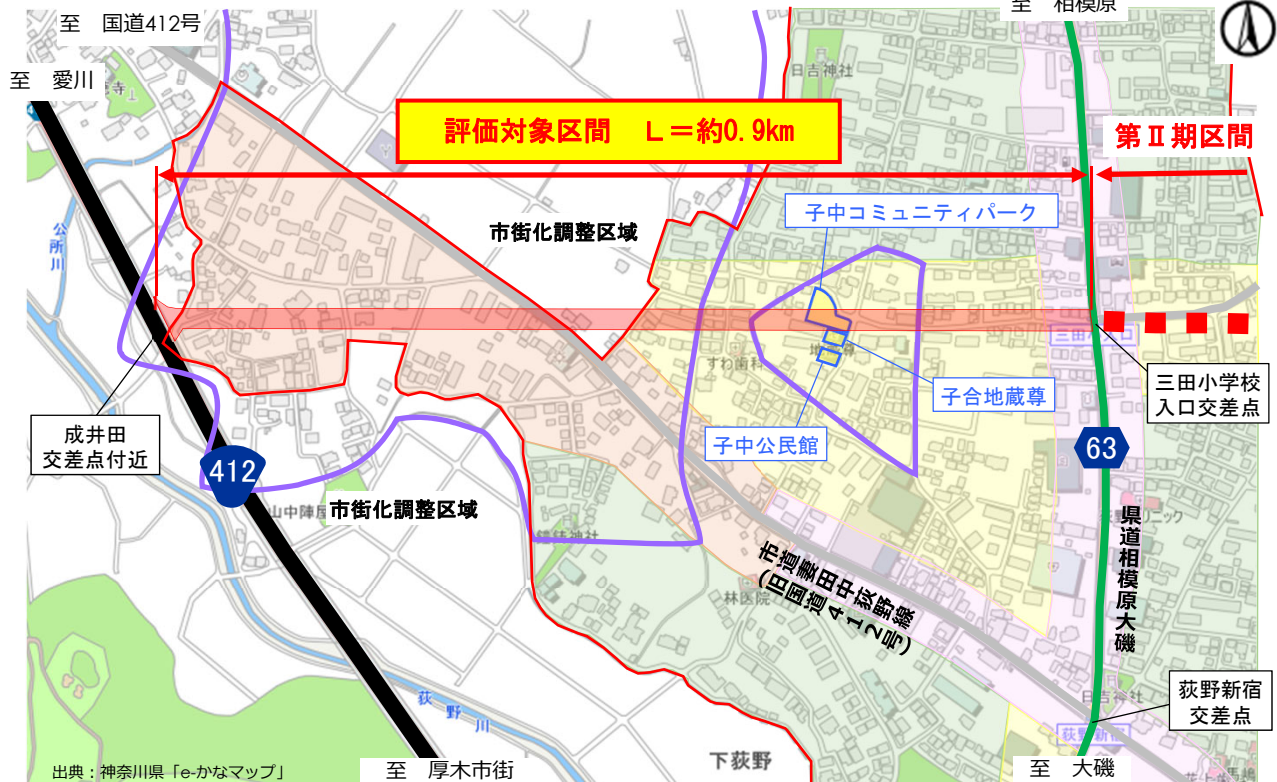
4. 事業の内容

- 1) 起 終 点：厚木市下荻野
- 2) 事業延長：約0.9 k m
- 3) 幅 員：22.0m
- 4) 交 通 量：計画交通量 16,700台／日（令和22年推計）
現況交通量 1,177台／日（令和6年7月）
- 5) 道路規格：第4種第1級
- 6) 設計速度：60 k m／h
- 7) 車 線 数：4車線
- 8) 歩道形態：両側歩道
- 9) 主な工種：道路改良工

断面図



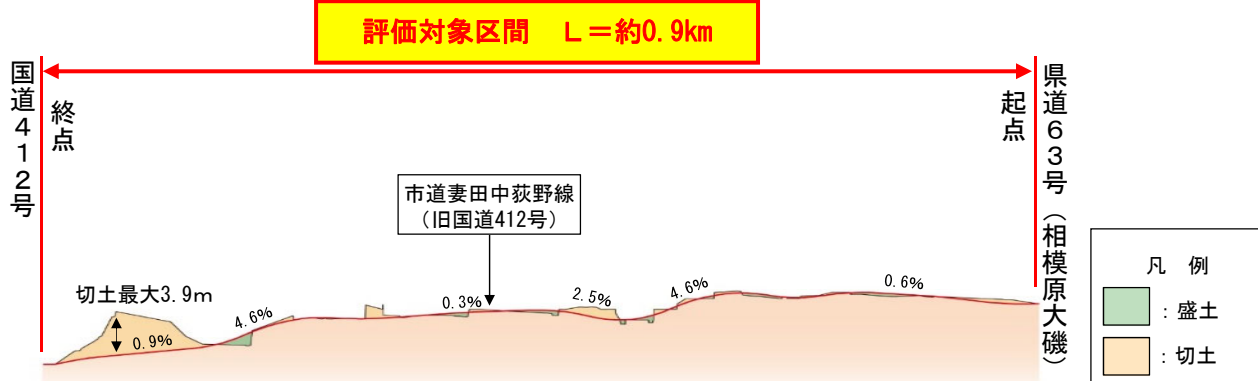
平面図



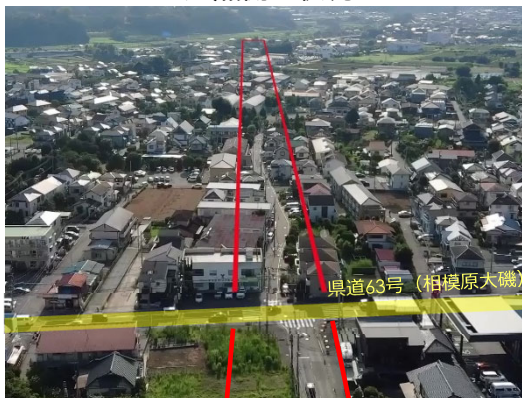
凡 例

- : 国道
- : 県道
- : その他の道路
- : 埋蔵文化財包蔵地
- : 第一種中高層住居専用地域
- : 第一種住居地域
- : 第二種住居地域
- : 近隣商業地域

側面図



起点側の状況



終点側の状況



◆ 評価の視点

1. 事業の必要性に関する視点

1) 事業を巡る社会経済情勢

ア) 地域の状況

- ・ 評価対象区間は、厚木市の郊外に位置し、周辺には製造業、流通業のほか、工業団地が立地している。
- ・ 中心市街地である本厚木駅周辺からは、評価対象区間周辺に向けて国道129号や国道412号が放射状に幹線道路として延びており、その沿道で市街地が形成されている。
- ・ 国道129号や国道412号では、朝夕を中心に、交通渋滞が発生しており、路線バスの定時性も著しく低下している。

イ) 事業地周辺の状況

- ・ 評価対象区間は、古くからの既成市街地で、周辺には、小学校、中学校、高校があるほか、近隣には災害時の拠点となる神奈川工科大学も立地している。
- ・ I 期区間約1.1 kmの供用により、通過交通の分散が図られ、渋滞の緩和には繋がっているが、評価対象区間周辺の道路では、生活交通や通過交通が混在し、交通混雑が発生している。
- ・ 評価対象区間付近は、歩道がなく幅員が狭小な道路が多いため、朝夕は交通渋滞を回避する車両の通行により、児童をはじめとした歩行者の安全な通行に支障をきたしている。

荻野新宿交差点付近



三田小学校入口交差点付近



神奈川県 地域の主要渋滞箇所（一般道）：首都圏渋滞ボトルネック協議会



凡例	
<主要渋滞箇所>	
●	: 箇所
■	: 区間

2) 事業の実施環境

ア) 事業に関係する計画、手続き等

【都市計画決定】

- ・ 昭和37年度：都市計画決定
- ・ 昭和44年度：都市計画変更（幅員、延長の変更）
- ・ 昭和60年度：都市計画変更（延長の変更）

【道路法における手続き】

- ・ 昭和58年度：県道42号（藤沢座間厚木） 路線認定

【本路線の整備状況】

- ・ 平成24年度：Ⅰ期区間 供用開始
- ・ 令和8年度：Ⅱ期区間 供用開始予定

【関係機関との協議】

- ・ 交通管理者と協議中

【地元住民等への説明会】

- ・ 令和7年度：実施予定

イ) 地元の意向

【座間荻野線建設促進協議会】

- ・ 厚木市と地元自治会で促進協議会を組織し、早期の事業着手を要望している。

【地域住民】

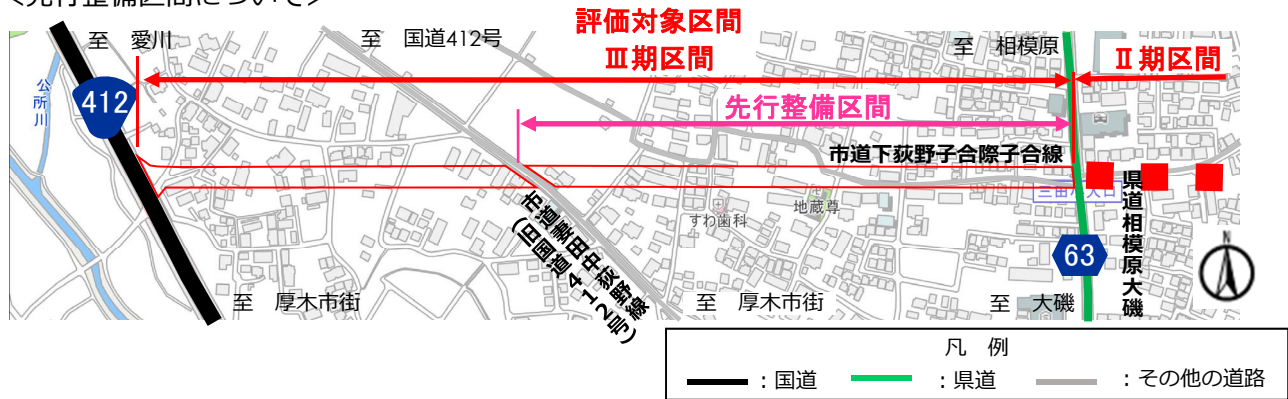
- ・ 早期整備の要望と併せて、地域活動が継続できるよう、コミュニティパークの代替地確保、地藏尊等の移設、地域分断を防ぐ方策の要望がある。



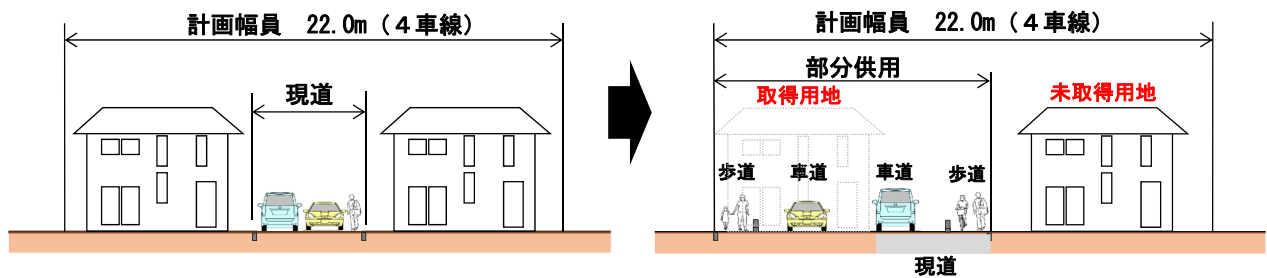
ウ) 技術面での配慮

- ・ 早期に整備効果を発現させるために、市道妻田中荻野線（旧国道412号）までを先行整備区間として、優先的に整備していく。
- ・ 評価対象区間は、4車線整備で進めるが、用地取得や埋蔵文化財調査の状況によっては、現在の市道を活用した段階整備など、部分供用も図りながら、早期の事業進捗をはかっていく。

＜先行整備区間について＞



＜部分供用について（イメージ）＞



工) 自然環境への配慮

- ・ 評価対象区間及びその周辺において、振動・騒音調査のほか、動植物の生態も含めた環境影響調査を実施する。調査結果を踏まえ、道路整備による自然環境への影響を把握し、環境の保全が必要な場合は、適切な措置を講じる。

オ) 景観

- ・ 厚木市景観計画を準拠するとともに、厚木市と協議を図り、道路付属物等を周辺環境との調和が図られた色彩にする。

カ) その他

- ・ 整備後の状況が視覚的に伝わりやすくなるよう、立体的な図面や動画を作成し、住民説明等で活用する。

3) 事業の投資効果

■費用対効果

社会的割引率		4 %の場合		1 %の場合	
B/C		1.7		3.9	
費用	事業費	53.2億円	52.0億円	61.6億円	58.3億円
	維持管理費		1.2億円		3.3億円
便益	走行時間短縮便益	90.1億円	86.9億円	239.6億円	231.1億円
	走行経費減少便益		3.2億円		8.5億円
	交通事故減少便益		0.0億円		0.0億円

経済的内部収益率（EIRR） 6.6%

■総合的な効果

ア) 防災

- ・ 「第1次緊急輸送道路」となり得る評価対象区間の整備により、災害時等における救急活動の円滑化や、支援物資の輸送力強化が期待できる。

イ) 行政コストの削減

- ・ 水道管理者と調整を図り、水道管の新設・更新工事を道路工事の工程と合わせることで、掘り返し等による費用を低減する。

ウ) 安全・安心・利便性

- ・ 現道は、歩道がなく幅員が狭小な道路であるため、評価対象区間の整備により両側に歩道が設置されることから、小学校へ通学する児童等の歩行者の安全性が向上する。
- ・ 中心市街地に向かう放射方向の幹線道路の交通渋滞が緩和し、地域の主要な公共交通である路線バスの定時性が確保され、地域住民の利便性が向上する。

エ) 地域の活性化

- ・ 圏央道のICへのアクセスが強化され、地域間交流や物流の効率化により、地域の活性化が図られる。

オ) 景観

- ・ 評価対象区間の整備にあたって、厚木市景観計画を準拠するとともに、厚木市と協議を図り、道路付属物等が周辺環境との調和が図られた色彩になる。

2. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

1) コスト縮減

- ・ 評価対象区間の終点部分では、沿道と道路の計画高さに高低差が生じるが、極力、コスト縮減した工法を検討する。その他の区間では、沿道の現況高さと計画高さを合わせ、切土や盛土、大規模な擁壁がない設計とする。

2) 代替案立案等の検討

- ・ 計画ルートは、既存の市道を極力活用し、買収する民地の面積を極力少なくするルートとなっており、経済性を考慮した計画となっている。
- ・ 評価対象区間の東側では、供用した区間もあるほか、現在整備中の区間もあり、路線の連続性を確保する観点からも、現計画による整備が最善である。

◆ 事業計画

1. 今後のスケジュール

- ・ 令和7年度から調査設計に着手し、令和22年度の完成を目指す。

	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)	R16 (2034)	R17 (2035)	R18 (2036)	R19 (2037)	R20 (2038)	R21 (2039)	R22 (2040)
調査設計																
用地取得																
埋蔵文化財調査 工事																

2. 事業見込み額及び内訳

- ・ 総事業費：75億円 事業費内訳 調査設計費：3億円 、 用地取得費：50億円、
埋蔵文化財調査費：16億円 、 工事費：6億円

◆ 対応方針（案）

本事業は、厚木市域の外郭環状道路の一部を形成し、主要幹線道路の交通を分散させるとともに、県央地域の東西方向の連携強化が図られるなど、事業の必要性・効果は高いと判断できるため、新規事業として着手することは適当である。